SmartOn®
SmartOn NEO→ID 移行手順書
Soliton
株式会社ソリトンシステムズ　2015年3月

目　次

本書について

いつも、株式会社ソリトンシステムズ オリジナルセキュリティ製品 SmartOn シリーズ「SmartOn NEO」をご利用いただき、誠にありがとうございます。

本書は、SmartOn NEO の環境を SmartOn ID の環境へ移行するための「移行手順書」です。SmartOn NEO をお使いのお客様は、本書をご一読いただき、SmartOn ID への移行をお願い申し上げます。

なお、SmartOn NEO および SmartOn ID の機能、設定などの詳細については、製品の各マニュアルおよびリリースノートを参照してください。

また、弊社 Web サイトにて、最新のアップデートパックおよびドキュメントを公開しております。ドキュメントを参照される際には、弊社 Web サイトもご確認ください。

http://www.soliton.co.jp/support/software/smarton/index.html

お手数をおかけいたしますが、今後ともご愛顧いただきますようお願い申し上げます。

本書の表記規則

本書は、次に示す一定の表記規則にしたがって書かれています。

一般

表記例	意味
メニューの [ファイル]-[開く]	メニューのコマンドの選択経路をあらわします。この例では、[ファイル]メニューに含まれている[開く]コマンドをあらわしています。
<OK>、<次へ> <OK>または<適用>	コマンドボタン名は、山カッコ（<>）で囲んであらわします。
「ファイル名」、「入力値」 「画面名」「ダイアログ名」 「参照場所」	構文中のかぎカッコ（「」）で囲んである部分は、ファイル名や入力値などをあらわします。また、画面名やダイアログ名、参照する場所などを示す場合も、かぎカッコ（「」）で囲んであらわします。
チェックする、チェックしない、チェックをはずす	メニューのコマンドやダイアログのチェックボックスなどを ON（または OFF）することをあらわします。

キー操作

表記例	意味
[Shift]キー	キーは、大カッコ（[]）で囲んであらわします。
[F]→[O]キー	キーが右矢印（→）で区切られている場合は、それぞれのキーを順に押すことをあらわします。この例では、[F]キー、[O]キーを順に押すことをあらわしています。
[Ctrl]+[A]キー	2 つのキーの間にあるプラス記号（+）は、最初のキーを押しながら 2 番目のキーを押すことをあらわします。この例では、[Ctrl]キーを押しながら、[A]キーを押すことをあらわしています。
矢印キー	[→]キー、[←]キー、[↑]キー、[↓]キーの総称です。

記号

記号	意味
	「注意事項」を意味します。使用方法などに関する注意事項や、設定を行う際の注意事項を説明しています。
	「関連」を意味します。設定を行う際の関連箇所を説明しています。
※	「注釈」を意味します。簡単な補足説明などのコメントを記述しています。

その他

項目	規則
操作方法	特に記載がない限り、マウスを使用した操作方法で説明しています。

1　概要

この章では、SmartOn NEO の環境を SmartOn ID の環境へ移行する手順の概要を説明します。

1.1　移行概要

SmartOn NEO の環境を SmartOn ID の環境に移行するには、まず SmartOn ID 用の ACL サーバーを構築する必要があります。

その後、SmartOn NEO の ACL サーバー上のデータを SmartOn ID の ACL サーバーへ移行し、ディスク発行やトークン登録などを行います。

SmartOn ID マネージャーで発行したディスクを、クライアント用コンピュータにインストールすることで移行が完了します。

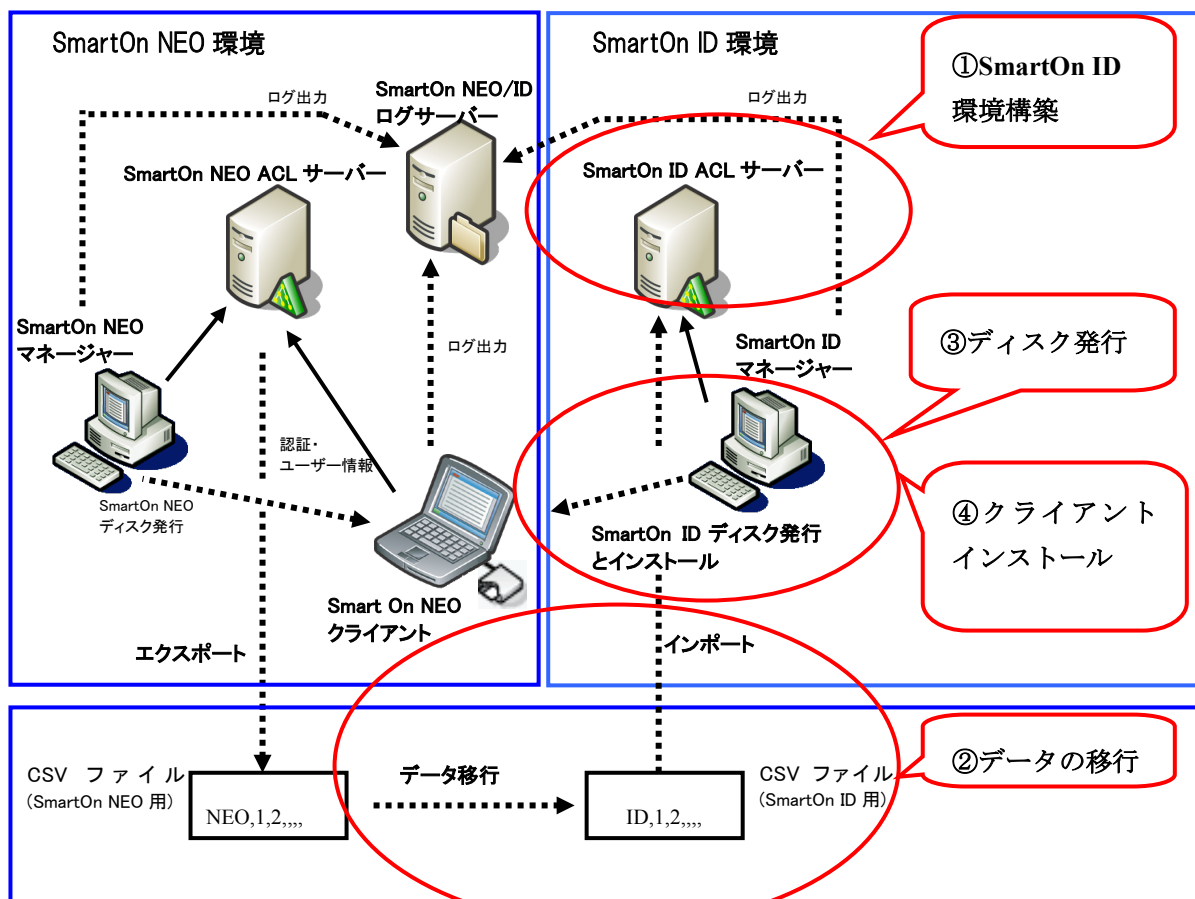



図 1.1.1　移行概要

SafetyPass 版の SmartOn NEO からの移行も対象です。以降では SafetyPass 版の記述はありませんが、本書の内容はすべて、SmartOn NEO と SafetyPass 版の SmartOn NEO で共通の内容となります。

また、SmartOn NEO のディスク情報の移行先は、SmartOn ID の(標準の)ディスク情報です。SmartOn ID のリモートアクセス用ではありません。したがって、本書中の SmartOn ID のディスクやクライアントに関する説明はすべて、標準のディスクやクライアントに関するものになります。なお、移行したユーザー情報は SmartOn ID で共通となるため、標準、リモートアクセス用の双方で使用可能です。

※移行時の制約事項と注意事項については、「4　制約事項および注意事項」を参照してください。

☞ 4　制約事項および注意事項

※データの移行は、弊社が提供する移行用ツール（CSV ファイル変換ツール）を使用して行いますが、一部、SmartOn NEO と SmartOn ID ではデータの構成や内容が異なるため、同ツールでは移行できない項目があります。移行対象となる項目、および、移行対象外となる項目の詳細については、「3　移行対象外項目、移行対象項目」を参照してください。また、CSV ファイル変換ツールの動作環境、および、同ツールが出力するメッセージ、ログの詳細については、「5　CSV ファイル変換ツール」を参照してください。

☞ 3　移行対象外項目、移行対象項目

☞ 5　CSV ファイル変換ツール

1.2　移行の準備

以下を参照し、移行時に必要なものを用意してください。

なお、ACL サーバーなど、SmartOn ID で使用するコンポーネントや認証デバイスの OS や仮想化環境への対応状況については、弊社の Web サイトのサポートサービスページで「各種 OS、仮想化環境、ウィルス対策ソフトウェアへの対応状況」を参照してください。

http://www.soliton.co.jp/support/win_virus/index.html

1.2.1　用意するもの

SmartOn ID への移行にあたり、必ず用意するものは、以下のとおりです。

表 1.2.1　必ず用意するもの

用意するもの	説明
SmartOn ID ACL サーバー用のコンピュータ	SmartOn ID ACL サーバー用に使用します。 ACL サーバーを複数台構成にする場合は、必要な台数を用意してください。
SmartOn ID マネージャー用のコンピュータ	SmartOn ID のマネージャーをインストールして使用します。 サブマネージャーを利用する場合は、必要な台数を用意してください。なお、使用する認証トークン、認証デバイスによっては、ACL サーバーと同じコンピュータにマネージャーをインストールすることもできます。その場合、マネージャー用のコンピュータを別途用意する必要はありません。

状況に応じて用意するものは、以下のとおりです。

表 1.2.2　状況に応じて用意するもの

用意するもの	説明
SmartOn NEO/ID ログサーバー用のコンピュータ	ログサーバーを新たに SmartOn ID 用に構築する場合、用意してください。 SmartOn NEO/ID ログサーバーは SmartOn NEO と SmartOn ID で共通のため、SmartOn NEO で使用していたログサーバーをそのまま使用することもできます。
認証トークン（IC カード、USB トークン）	SmartOn NEO で使用していた認証トークンを、SmartOn ID では使用できない場合があります。SmartOn ID で使用できる認証トークンを用意してください。 詳細については「1.2.2　認証トークンと認証デバイス」を参照してください。 ☞ **1.2.2　認証トークンと認証デバイス**
認証デバイス（IC カードリーダー/ライター）	新たに認証トークンを用意するなどの影響で、SmartOn NEO で使用していた認証デバイスを、そのまま SmartOn ID では使用できない場合があります。SmartOn ID で使用できる認証デバイスを用意してください。 詳細については「1.2.2　認証トークンと認証デバイス」を参照してください。 ☞ **1.2.2　認証トークンと認証デバイス**
1XGate 機能と同等の環境	SmartOn NEO で 1XGate 機能を使用している場合にのみ、対象となります。 SmartOn ID には 1XGate 機能がありません。そのため 1XGate 機能の移行は行いません。引き続き Windows 標準のサプリカントなど、他のサプリカントを使用する場合は、その環境を用意してください。ただし、いくつかの制約事項および注意事項があります。詳細については「4.3　SmartOn NEO で 1XGate 機能を使用している場合」を参照してください。 ☞ **4.3　SmartOn NEO で 1XGate 機能を使用している場合**
トークン登録用の CSV ファイル	SmartOn NEO で使用していた有効化シリアルのトークンシリアル情報は、SmartOn ID へは移行されません。そのため SmartOn ID の環境で、有効化シリアルのトークンシリアルの登録作業が必要になります。 この登録作業で必要なものは、ユーザー情報（SmartOn アカウント）と、認証トークンに設定されているトークン ID です。SmartOn ID では、インポート・エクスポートツールを使用することで、これらの情報を一括登録することができます。その場合は、一括で登録するための CSV ファイルを用意してください。CSV ファイルのフォーマットについては、「SmartOn ID インポート・エクスポートツール 取扱説明書」の「10.6　トークン登録」を参照してください。

1.2.2　認証トークンと認証デバイス

SmartOn ID で使用できる認証トークンは、一意なデータが格納されている領域が存在しているトークンです。

ここでは、認証トークンと認証デバイスを新たに用意するかどうかについて、SmartOn NEO でのディスク設定の「トークンの種類」の設定ごとに説明します。

以下は、使用可能な「トークンの種類」です。

表 1.2.3　トークンの種類（使用可能）

トークンの種類	説明
FeliCa	この場合、認証トークンは FeliCa、認証デバイスは PaSoRi となります。 FeliCa には SmartOn ID で利用できるデータが存在するため、認証トークン、認証デバイスとも、引き続き SmartOn ID でも使用できます。
iKey	iKey には SmartOn ID で利用できるデータが存在するため、引き続き SmartOn ID でも使用できます。
eToken(PKCS#11)	PKCS#11 でアクセスする eToken には SmartOn ID で利用できるデータが存在するため、引き続き SmartOn ID でも使用できます。

以下は、条件付きで使用可能な「トークンの種類」です。

表 1.2.4　トークンの種類（条件付きで使用可能）

トークンの種類	説明
PC/SC 対応リーダー	「PC/SC 対応リーダー」の設定で使用している認証トークンには、SmartOn ID で利用できるデータが存在する可能性があります。詳しくは、構築業者に確認してください。 SmartOn ID で利用できるデータが存在しない場合、または不明な場合は、他の認証トークンを用意してください。また認証トークンにより、認証デバイスも用意する必要があります。

以下は、使用不可の「トークンの種類」です。

表 1.2.5　トークンの種類（使用不可）

トークンの種類	説明
eToken	この場合は SmartOn ID では利用できません。他の認証トークンを用意してください。また認証トークンにより、認証デバイスも用意してください。

「NEC JAVA」に関しては、構築業者に確認してください。

なお、IC カードで接触・非接触の 2 つのインターフェイスが搭載されている場合、SmartOn NEO 以外で使用しているインターフェイスでアクセスするデータの一部が、SmartOn ID で使用できることがあります。そのデータを SmartOn ID で使用する場合、認証トークンを新たに用意する必要はありませんが、認証デバイスは新たに用意する必要があります。詳しくは、構築業者に確認してください。

また、使用可能な場合であっても、新規購入・既存のトークンの流用を問わず、SmartOn ID では別の認証トークンを利用する場合、必要に応じて認証デバイスも用意してください。

1.2.3　弊社が提供するもの

SmartOn ID への移行にあたり、弊社が提供するものは、以下のとおりです。

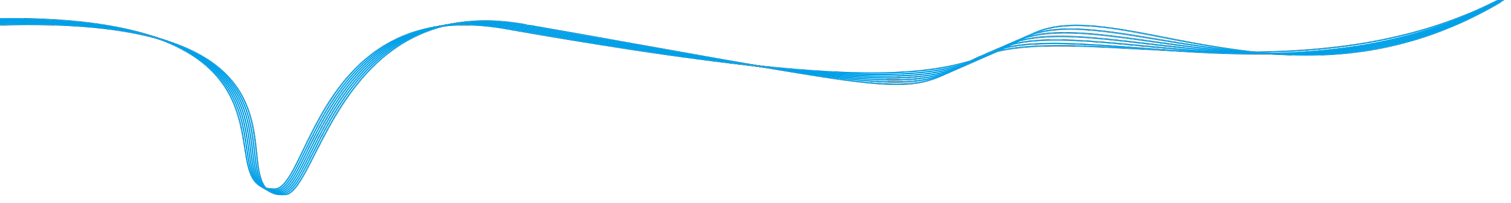



表 1.2.6　弊社が提供するもの

提供するもの	説明
SmartOn ID 用のライセンスコード	SmartOn ID 用の製品ライセンスコード、トークンライセンスコード、および、分散管理ライセンスコード（SmartOn NEO で分散管理ライセンスコードを購入している場合のみ）を提供します。 なお、この製品ライセンスコードでは、SmartOn ID for リモートアクセスは利用できません。別途リモートアクセス用のライセンスを購入してください。
SmartOn ID Ver.2.8.1 のプログラム CD-ROM	プログラム CD-ROM には、SmartOn ID の環境構築等に必要な、SmartOn ID 用のスキーマ拡張ツール、SmartOn ID マネージャーのインストールプログラムなどが含まれています。
SmartOn ID Ver.2.8.1 のアップデートパック（※1）	弊社の Web サイト（※2）から最新のアップデートパックをダウンロードしてください。 SmartOn ID のマネージャーをインストール後、最新のアップデートパックを必ず適用してください。
CSV ファイル変換ツール	SmartOn NEO のデータを SmartOn ID に移行する過程で、SmartOn NEO 用のインポート・エクスポートツールでエクスポートした CSV ファイルを、SmartOn ID 用のインポート・エクスポートツールでインポートする CSV ファイルのフォーマットに変換するときに使用します。 CSV ファイル変換ツールの準備については、「1.2.3.1　CSV ファイル変換ツールの準備」を参照してください。 ☞ **1.2.3.1　CSV ファイル変換ツールの準備**
SmartOn NEO/SmartOn ID のインポート・エクスポートツール（※3）	CSV ファイル変換ツールに同梱されています。 SmartOn NEO のデータを SmartOn ID に移行する過程で使用します。SmartOn NEO の ACL サーバーのデータをエクスポートするときに、SmartOn NEO 用のインポート・エクスポートツールを使用します。また、CSV ファイル変換ツールで変換したデータを SmartOn ID の ACL サーバーにインポートするときに、SmartOn ID 用のインポート・エクスポートツールを使用します。
SmartOn NEO 用のスキーマ拡張ツール（※3）	CSV ファイル変換ツールに同梱されています。 SmartOn NEO 用の ACL サーバーのスキーマを拡張するときに使用します。なお、SmartOn NEO 用のスキーマ拡張ツールは、利用している SmartOn NEO のバージョンが 2.6.0（アップデートパック 1～3 を含む）、またはそれ以下の場合に使用します。バージョンが 2.8.0、またはそれ以降の場合は、使用しません。

※1　2015 年 3 月現在、最新のアップデートパックは、Ver.2.8.1 のアップデートパック 7 です。
本書では、以降、「Ver.2.8.1 のアップデートパック 7、またはそれ以降のアップデートパック」を「最新のアップデートパック」と表記します。

※2　http://www.soliton.co.jp/support/software/smarton/index.html

※3　SmartOn NEO、および SmartOn ID 用のインポート・エクスポートツール、スキーマ拡張ツールの使用方法については、弊社の Web サイトで公開している最新のドキュメントを参照してください。

1.2.3.1　CSV ファイル変換ツールの準備

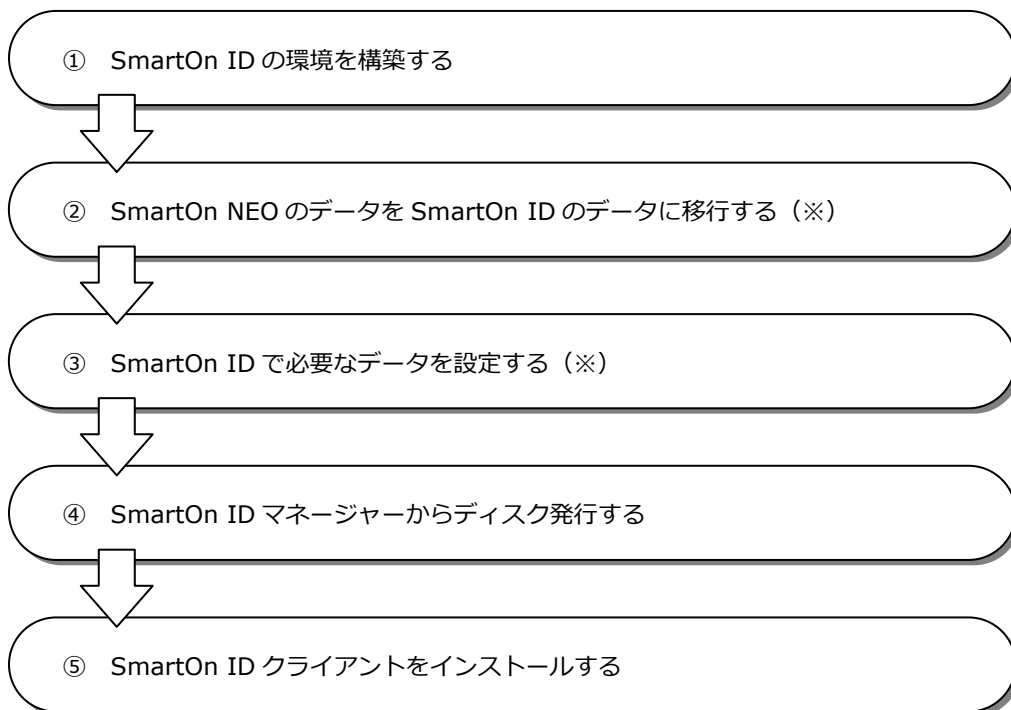
以下の手順で、CSV ファイル変換ツールを準備してください。

1. 弊社 Web サイトから、「SmartOnNEO_ID_MigrationTools.zip」をダウンロードしてください。
2. ダウンロードした「SmartOnNEO_ID_MigrationTools.zip」を任意のフォルダに解凍してください。
3. 手順 2 で解凍したフォルダを開いてください。解凍後のフォルダ構成については、解凍したフォルダ内の「Readme.txt」を参照してください。

SmartOn NEO から SmartOn ID への移行時に使用する SmartOn NEO/SmartOn ID のインポート・エクスポートツール、および SmartOn NEO 用のスキーマ拡張ツールは、必ず CSV ファイル変換ツールに付属のものを使用してください。

2　移行手順

この章では、移行手順について説明します。

移行の流れは、以下のとおりです。

（※）本書では、例として以下の環境を用意し、移行を行う手順を説明します。

- エクスポート/データの変換/インポートを行うコンピュータ
  「コンピュータ A」
- SmartOn NEO からエクスポートした CSV ファイルの格納フォルダ
  「D:¥NEO_Export」（コンピュータ A に作成）
- CSV 変換ツールで変換した（SmartOn ID へインポートする）CSV ファイルの格納フォルダ
  「D:¥ID_Import」（コンピュータ A に作成）

コンピュータ A は、既存の SmartOn NEO の ACL サーバー、および「2.1　SmartOn ID の環境を構築する」で構築する SmartOn ID の ACL サーバー、双方にネットワーク接続できる環境です。

2.1　SmartOn ID の環境を構築する

SmartOn ID の環境を構築します。SmartOn NEO で使用している既存の Active Directory とは別に、Active Directory を構築します。ドメインは、SmartOn NEO 用とは別のドメインにします。

❑　用意するもの

以下のものを用意してください。

- SmartOn ID 用の製品ライセンスコードとトークンライセンスコード、
  および分散管理ライセンスコード
- SmartOn ID Ver.2.8.1 のプログラム CD-ROM
- SmartOn ID Ver.2.8.1 の最新のアップデートパック

SmartOn ID の環境構築については、以下のドキュメントを参照してください。

- SmartOn ID 管理者ガイド
  「第 2 章　インストール・アンインストール」
- SmartOn ID クイックセットアップガイド
  「第 4 章　SmartOn ID ACL サーバーの構築」
  「第 5 章　SmartOn ID マネージャーのインストール」

❑　SmartOn ID の環境構築手順

SmartOn ID の環境構築は、以下の手順で行ってください。

1. SmartOn ID 用の ACL サーバー（Active Directory）を構築します。

   ※Active Directory のパスワードポリシー設定が標準の場合、SmartOn ID へのデータ移行に失敗することがあります。詳細については「4.2　注意事項」を参照ください。

   ☞ **4.2　注意事項**

2. SmartOn ID Ver.2.8.1 のプログラム CD-ROM に付属するスキーマ拡張ツールを使用して、スキーマ拡張を行います。

3. SmartOn ID Ver.2.8.1 のマスターマネージャーをインストールします。インストール時に、SmartOn ID 用の製品ライセンスコードとトークンライセンスコードを設定します。

4. SmartOn ID マスターマネージャーインストール後、SmartOn ID 用の分散管理ライセンスコードを設定します。（SmartOn NEO で分散管理ライセンスコードを購入している場合のみ）

5. SmartOn ID Ver.2.8.1 の最新のアップデートパックを、SmartOn ID マスターマネージャーに適用します。

6. SmartOn ID サブマネージャーをインストールして、最新のアップデートパックを適用します。（SmartOn NEO で分散管理ライセンスコードを購入している場合のみ）

7. インストールしたそれぞれのマネージャーが、正常に起動できることを確認してください。

各種ライセンスコードが設定されていないと、移行時のインポート処理に失敗します。
SmartOn ID 用の製品ライセンスコード、トークンライセンスコード、分散管理ライセンスコード（SmartOn NEO で分散管理ライセンスコードを購入している場合のみ）は、必ず設定してください。

2.2　SmartOn NEO のデータを SmartOn ID に移行する

SmartOn NEO ACL サーバーに格納している既存のデータを、「2.1　SmartOn ID の環境を構築する」で構築した SmartOn ID ACL サーバーに移行します。

なお、トークン登録や SmartOn ID のみに存在する項目の設定などは、別途行う必要があります。詳細については「2.3　SmartOn ID で必要なデータの設定」を参照してください。

☞ **2.3　SmartOn ID で必要なデータの設定**

❑ 用意するもの

以下のものを用意してください。

- CSV ファイル変換ツール
- SmartOn NEO スキーマ拡張ツール（CSV ファイル変換ツールに付属）
- SmartOn NEO インポート・エクスポートツール（CSV ファイル変換ツールに付属）
- SmartOn ID インポート・エクスポートツール（CSV ファイル変換ツールに付属）

SmartOn NEO/ID でのエクスポート、インポート方法については、以下のドキュメントを参照してください。

- SmartOn NEO インポート・エクスポートツール 取扱説明書
- SmartOn ID インポート・エクスポートツール 取扱説明書

❑ データの移行手順

データの移行は、以下の手順で行ってください。

1. SmartOn NEO のバージョンを確認してください。

   SmartOn NEO のバージョンが 2.6.0（アップデートパック 1～3 を含む）、またはそれ以下の場合、スキーマ拡張を行う必要があります。手順 2 へ進んでください。

   SmartOn NEO のバージョンが 2.8.0、またはそれ以降の場合、スキーマ拡張の必要はありません。手順 3 へ進んでください。

   [SmartOn NEO のバージョン確認方法]
   マネージャーを起動し、[Soliton SmartOn NEO マネージャー]を右クリックして表示されるメニューから[バージョン情報]を選択してください。バージョン情報画面の「Soliton SmartOn NEO マネージャー」（マスター、サブマネージャーで表記は同様です）の項目に、SmartOn NEO のバージョンが表示されます。

2. CSV ファイル変換ツールに付属している SmartOn NEO スキーマ拡張ツールを使用して、SmartOn NEO ACL サーバーをスキーマ拡張します。

   「1.2.3.1　CSV ファイル変換ツールの準備」で解凍した[extSchm]-[NEO]フォルダ内の「extSchm.exe」をコンピュータ A の任意のフォルダにコピーし、「extSchm.exe」を実行して SmartOn NEO ACL サーバーのスキーマ拡張を行ってください。

   なお、SmartOn NEO クライアントをバージョンアップする必要はありません。

3. SmartOn NEO ACL サーバーの情報を、SmartOn NEO 用のインポート・エクスポートツールを使用してエクスポートし、CSV ファイルに出力します。

   詳細については、「2.2.1　SmartOn NEO ACL サーバー情報のエクスポート」を参照してください。

   ☞ **2.2.1　SmartOn NEO ACL サーバー情報のエクスポート**

4. 手順 3 でエクスポートした CSV ファイルを、CSV ファイル変換ツールを使用して、SmartOn ID で使用できるように変換します。

   詳細については、「2.2.2　データの変換」を参照してください。

☞ **2.2.2　データの変換**

5. 手順 4 で変換された CSV ファイルのデータを、SmartOn ID 用のインポート・エクスポートツールを使用して、SmartOn ID ACL サーバーにインポートします。

   詳細については、「2.2.3　SmartOn ID へのインポート」を参照してください。

☞ **2.2.3　SmartOn ID へのインポート**

2.2.1　SmartOn NEO ACL サーバー情報のエクスポート

SmartOn NEO 用のインポート・エクスポートツールを使用して、SmartOn NEO の ACL サーバーの情報をエクスポートします。ACL サーバーの情報は、CSV ファイルに出力されます。

SmartOn NEO の ACL サーバー情報のエクスポート方法は、以下のとおりです。

1. 「1.2.3.1　CSV ファイル変換ツールの準備」で解凍した[Import]-[NEO]フォルダごと、コンピュータ A の任意のフォルダにコピーしてください。

2. コンピュータ A で、[NEO]フォルダ内の「aclcsv.exe」を実行してください。

3. 図 2.2.1 が表示されます。

   [処理の種類]で「エクスポート」を選択し、[フォルダ]に CSV ファイルの出力先フォルダを指定してください。なお、指定したフォルダが存在しない場合は、自動的にフォルダが作成されます。

   ここでは、以下のように設定します。

   [フォルダ]　　　　　　：「D:¥NEO_Export」

インポート/エクスポートツール（1, 2, 0, 5）

処理の種類(K): エクスポート　オプション(O)...

読み込み元/出力先フォルダ

フォルダ(F): D:¥NEO_Export　参照(R)...

読み込み元/出力先のACLサーバー

サーバー名にIPアドレスを指定する場合、[詳細]を設定してください。

サーバー名(S): acl-neo.exmaple.com

ユーザー名(U): administrator

パスワード(P): ********　詳細(D)...

実行(A)　終了(E)

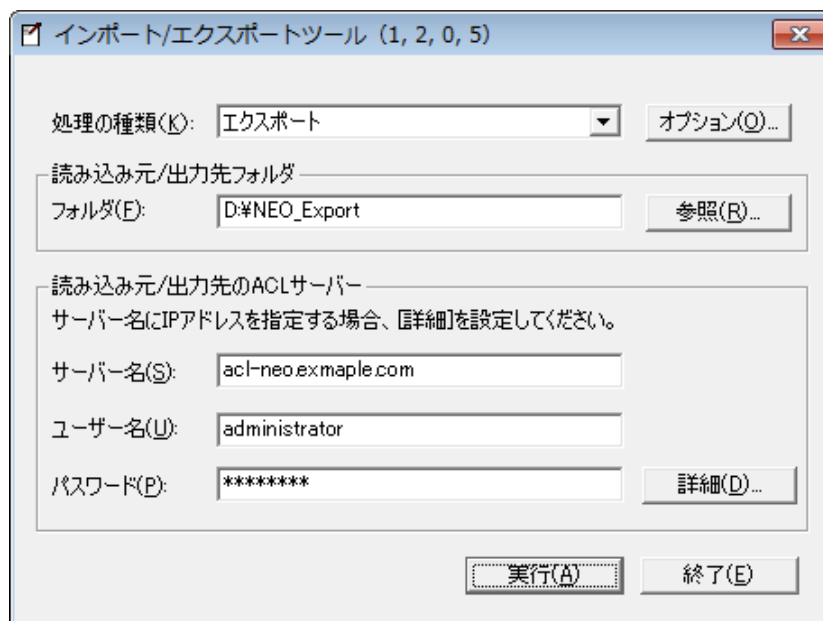



図 2.2.1　SmartOn NEO インポート・エクスポートツール

SmartOn ID の ACL サーバーに情報をインポートするとき、ビルトインアカウントはエラーとなりインポートできません。図 2.2.1 で<オプション>をクリックし、図 2.2.2 のオプション設定で「ビルトインアカウントをエクスポートしない」にチェックしてから、エクスポートを行ってください。

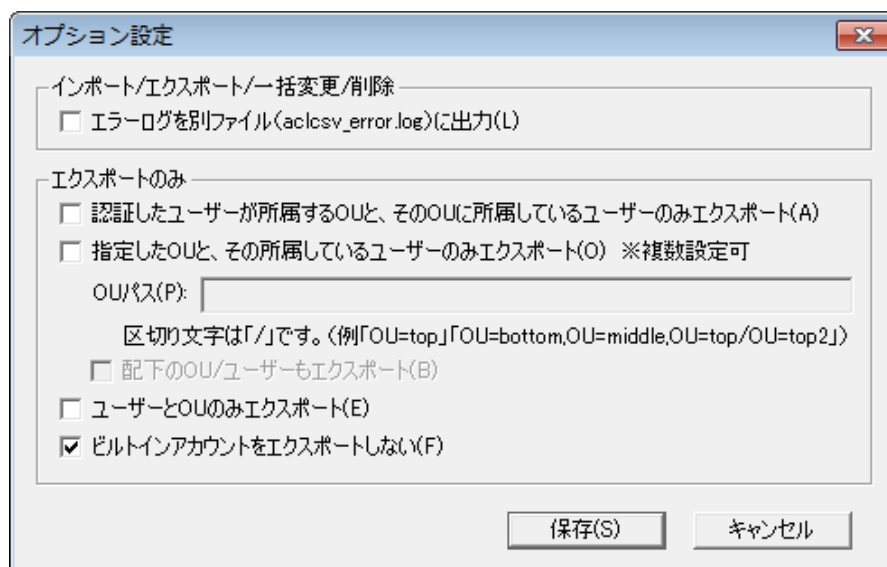



図 2.2.2　オプション設定

4.　図 2.2.1 で<実行>をクリックし、エクスポートを行ってください。

5.　エクスポート完了後に、出力先フォルダに CSV ファイルが出力されていることを確認してください。

インポート・エクスポートツールの操作方法、およびエクスポートの詳細については、「SmartOn NEO インポート・エクスポートツール 取扱説明書」を参照してください。

2.2.2　データの変換

「2.2.1　SmartOn NEO ACL サーバー情報のエクスポート」でエクスポートした CSV ファイルを、CSV ファイル変換ツール（CsvChange.exe）を使用して、SmartOn ID のインポート・エクスポートツールで使用できる CSV フォーマットに変換します。

※CSV ファイル変換ツールの動作環境については、「5　CSV ファイル変換ツール」を参照してください。

☞ 5　CSV ファイル変換ツール

CSV ファイル変換ツールの使用方法は、以下のとおりです。

1. 「1.2.3.1　CSV ファイル変換ツールの準備」で解凍した[Module]フォルダごと、コンピュータ A の任意のフォルダにコピーしてください。

2. コンピュータ A で、[Module]フォルダ内の「CsvChange.exe」を実行してください。

3. 図 2.2.3 が表示されます。

   [NEO 用フォルダ]には「2.2.1　SmartOn NEO ACL サーバー情報のエクスポート」でエクスポートした、すべてのファイルおよびサブフォルダが含まれているフォルダを指定してください。

   [ID 用フォルダ]には変換後の CSV ファイルの出力先フォルダを指定してください。なお、指定したフォルダが存在しない場合は、自動的にフォルダが作成されます。

   ここでは、以下のように設定します。

   [NEO 用フォルダ]　　：「D:¥NEO_Export」
   [ID 用フォルダ]　　：「D:¥ID_Import」

図 2.2.3　CSV ファイル変換ツール

表 2.2.1　CSV ファイル変換ツール

項目	説明
NEO 用フォルダ	「2.2.1　SmartOn NEO ACL サーバー情報のエクスポート」で、SmartOn NEO からエクスポートしたすべてのファイルおよびサブフォルダが含まれているフォルダを指定してください。
ID 用フォルダ	SmartOn　ID 用に変換した CSV ファイルの保存先フォルダを指定してください。
SmartOn 認証パスワードの変換元	SmartOn ID の SmartOn 認証パスワードとして引き継がせる設定値を、「NEO の PIN」か「NEO の SmartOn 認証パスワード」から選択してください。
ID のトークン登録可能回数を指定する	エクスポートした NEO_User.csv/NEO_OUUser.csv の「クライアントでのトークン発行可能回数」の設定を ID に反映させるのではなく、すべてのユーザーの ID のトークン登録可能回数を同じ回数に設定したい場合はチェックし、回数を設定してください。

4. 必要に応じて[変換先への設定]を変更し、<実行>をクリックしてください。

なお、[SmartOn 認証パスワードの変換元]で選択した項目によって、以下の項目は変換元が変わります。

表 2.2.2　「NEO の PIN」を設定

変換元（NEO）の項目	変換先（ID）の項目
PIN	SmartOn 認証パスワード
PIN の変更を禁止する	SmartOn パスワード変更を禁止する
SmartOn 認証パスワード	変換されない
SmartOn パスワード変更を禁止する	変換されない
初回ログオン時に PIN を変更する	初回ログオン時にパスワードを変更する

表 2.2.3　「NEO の SmartOn 認証パスワード」を設定

変換元（NEO）の項目	変換先（ID）の項目
PIN	変換されない
PIN の変更を禁止する	変換されない
SmartOn 認証パスワード	SmartOn 認証パスワード
SmartOn パスワード変更を禁止する	SmartOn パスワード変更を禁止する
初回ログオン時に PIN を変更する	変換されない

5.　図 2.2.4 が表示されます。<はい>をクリックし、処理を開始してください。

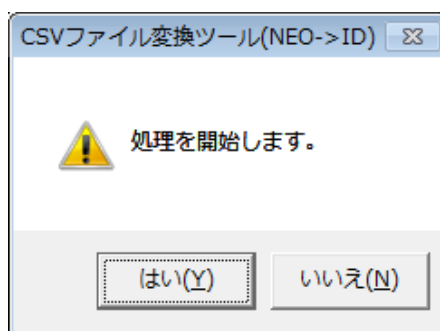



図 2.2.4　処理の開始

6.　処理が終了すると、図 2.2.5 が表示されます。<OK>をクリックし、CSV ファイル変換ツールを終了してください。

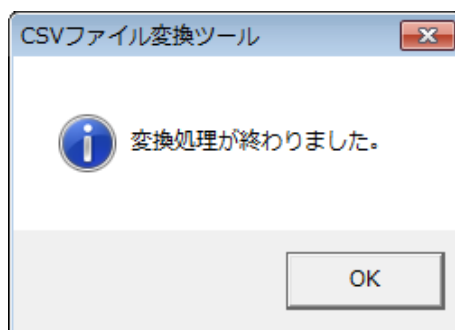



図 2.2.5　処理の終了

7.　手順 3 で指定した[ID 用フォルダ]に、CSV ファイルおよびサブフォルダが出力されていることを確認してください。

❑ コマンドラインから実行

CSV ファイル変換ツールをコマンドラインから実行する場合は、表 2.2.4 のように引数を設定してください。

表 2.2.4　コマンドラインから実行

項目	説明
NEO 用フォルダ（必須）	NEO 用フォルダを設定します。スイッチは不要です。 第 1 引数として設定します。
ID 用フォルダ（必須）	ID 用フォルダを設定します。スイッチは不要です。 第 2 引数として設定します。
SmartOn 認証パスワードの変換元	「NEO の SmartOn 認証パスワード」とする場合、「/S」または「/s」を設定します。第 3 または第 4 引数として設定します。 「NEO の PIN」とする場合、設定は不要です。
ID のトークン登録可能回数を設定する	「ID のトークン登録可能回数を設定する」を設定する場合、0～99 を設定します。第 3 または第 4 引数として設定します。 NEO_User.csv の「クライアントでのトークン発行可能回数」の設定を ID に反映させる場合、設定は不要です。

例えば、コンピュータ A で CSV ファイルを変換する場合には、以下のコマンドを実行します。

条件）

- NEO 用フォルダ　D:¥NEO_Export
- ID 用フォルダ　D:¥ID_Import
- SmartOn 認証パスワードの変換元　NEO の SmartOn 認証パスワード
- ID のトークン登録可能回数　10 回

実行例）

```
CsvChange.exe "D:¥NEO_Export" "D:¥ID_Import" /s 10
```

※フォルダのパスにスペースが含まれる場合は、必ずダブルクォーテーション（"）で括ってください。

CSV ファイル変換ツールのその他の内容については、「5　CSV ファイル変換ツール」を参照してください。

☞ 5　CSV ファイル変換ツール

2.2.3　SmartOn ID へのインポート

「2.2.2　データの変換」で SmartOn ID 用に変換された CSV ファイルを、SmartOn ID 用のインポート・エクスポートツールを使用して、SmartOn ID ACL サーバーにインポートします。

なお、パスワードのポリシーに関する注意事項については、「4.2　注意事項」を参照してください。

☞ 4.2　注意事項

SmartOn ID への ACL サーバー情報のインポート方法は、以下のとおりです。

1. 「1.2.3.1　CSV ファイル変換ツールの準備」で解凍した[Import]-[ID]フォルダごと、コンピュータ A の任意のフォルダにコピーしてください。

2. コンピュータ A で、[ID]フォルダ内の「aclcsvID.exe」を実行してください。

3. 図 2.2.6 が表示されます。

   「2.2.2　データの変換」で SmartOn ID 用に変換された、すべての CSV ファイルが含まれているフォルダを読み込み元フォルダとして指定してください。

   ここでは、以下のように設定します。

   [処理の種類]　　　　:「インポート」
   [フォルダ]　　　　　:「D:¥ID_Import」

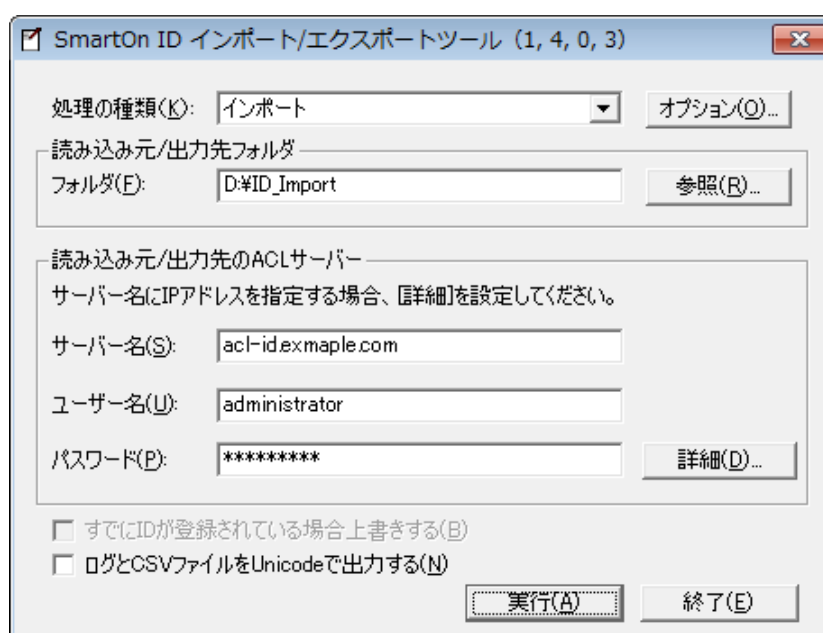



図 2.2.6　SmartOn ID インポート・エクスポートツール

4. 図 2.2.6 で<実行>をクリックし、インポートを行ってください。

5. インポートの完了後に、SmartOn ID マネージャーを起動し、設定内容を確認してください。

インポート・エクスポートツールの操作方法、およびインポートの詳細については、「SmartOn ID インポート・エクスポートツール 取扱説明書」を参照してください。

2.3　SmartOn ID で必要なデータの設定

データ移行後、SmartOn ID を利用するために、SmartOn ID マネージャーにて以下の設定と操作が必要となります。

SmartOn ID マネージャーの操作方法については、「SmartOn ID 管理者ガイド」を参照してください。

表 2.3.1　移行後に必要な操作

設定	説明
ID 読み込み先の設定	SmartOn ID マネージャーインストール後、ID 読み込み先の設定を行ってください。
トークン登録	データ移行処理を行うだけではトークン登録は行われません。 SmartOn ID マネージャーまたはインポート・エクスポートツールを使用して、トークン登録を行ってください。 SmartOn ID クライアントでトークン登録を行う場合は、ユーザー/ディスク情報に対して、必要な設定を行ってください。
ディスク設定の接続先 ACL サーバー設定の変更	ディスク設定の「接続先 ACL サーバー設定」にデータを設定していた場合、データ移行後には、移行前の SmartOn NEO の ACL サーバーが設定されています。 SmartOn ID マネージャーを使用して、「接続先 ACL サーバー設定」を SmartOn ID の ACL サーバーに変更する必要があります。 SmartOn NEO の ACL サーバーの設定をすべて削除してから、SmartOn ID の ACL サーバーの設定を追加してください。
初期アカウントの設定	「ディスク管理」で右クリックのメニューから「初期アカウントの設定」を選択して初期アカウントの共通設定を行うか、ディスクのプロパティの「初期アカウント」タブで初期アカウントを設定してください。
サブマネージャーライセンスの新規発行	サブマネージャーを使用する場合、サブマネージャーライセンスファイルは、SmartOn ID マネージャーで発行したものを使用してください。
データ移行では設定されない項目の設定	詳細については「3.1　データ移行対象外項目」を参照してください。 ☞ **3.1　データ移行対象外項目**

2.4　ディスク発行

SmartOn ID マネージャーで、「通常のディスク発行」を行います。SmartOn NEO から SmartOn ID への移行では、「アップデートディスク発行」によるモジュールアップデート機能は使用できません。

ディスク発行については、SmartOn ID 管理者ガイドの「8.7　ディスク発行」、SmartOn ID クイックセットアップガイドの「第 6 章　SmartOn ID クライアントの構築準備」も参照してください。

なお、SmartOn ID のクライアントの認証画面をカスタマイズする場合、ディスク発行前にファイルを差し替えます。詳細については、SmartOn ID 管理者ガイドの「2.8.3　SmartOn クライアントの認証画面のカスタマイズ」を参照してください。

2.5　クライアントのインストール

SmartOn ID マネージャーから発行したディスクをインストールします。

SmartOn ID クライアントのインストールについては、SmartOn ID 管理者ガイドの「2.8　SmartOn クライアントのインストール」、SmartOn ID クイックセットアップガイドの「7.3　SmartOn ID クライアントのインストール」も参照してください。

また、SmartOn NEO クライアントのアンインストールについては、SmartOn NEO 管理者ガイドの「2.9　SmartOn クライアントのアンインストール」を参照してください。

2.5.1　新規インストール

SmartOn NEO クライアントとして使用していたのとは別のコンピュータや、SmartOn NEO クライアントをアンインストールしたコンピュータにインストールする場合、SmartOn ID のクライアントを新規にインストールします。

2.5.2　SmartOn NEO クライアントから SmartOn ID クライアントへの移行

SmartOn NEO の 1XGate 機能がインストールされている場合とされていない場合で、SmartOn NEO クライアントから SmartOn ID クライアントへの移行方法が異なります。

※ここで説明する SmartOn ID クライアントは、標準クライアントです。リモートアクセスクライアントは対象外です。

- SmartOn NEO の 1XGate 機能がインストールされている場合

SmartOn NEO の 1XGate 機能がインストールされている場合は、制約事項があるため、上書きインストールすることはできません。

SmartOn NEO のクライアントをアンインストールして、SmartOn ID のクライアントを新規にインストールしてください。

詳細については、「4.3　SmartOn NEO で 1XGate 機能を使用している場合」を参照してください。

☞ **4.3　SmartOn NEO で 1XGate 機能を使用している場合**

- SmartOn NEO の 1XGate 機能がインストールされていない場合

SmartOn NEO の 1XGate 機能がインストールされていない場合は、上書きインストールすることができます。

SmartOn NEO のクライアントがインストールされているコンピュータに SmartOn ID のクライアントをインストールする場合は、SmartOn ID マネージャーから発行したディスクを使用して、「強制上書きインストール」します。オプション「/F」を設定し、「Setup.exe /F」として実行してください。

なお、SmartOn NEO クライアントがどのバージョンでも、SmartOn ID クライアントに強制上書きインストールできます。SmartOn NEO マネージャー/クライアントが最新のバージョンでない場合や、SmartOn NEO の最新のアップデートパックが適用されていない場合も、最新の状態にアップデートする必要はありません。

上書きインストール後は、SmartOn ID のクライアントが正常にログオンできることを確認してください。

3　移行対象外項目、移行対象項目

この章では、データ移行対象外項目やデータ移行対象項目について説明します。

3.1　データ移行対象外項目

データ移行対象外項目は、SmartOn NEO と SmartOn ID で同様の設定ではないため、移行対象外としている項目です。

これらのうち、SmartOn ID に存在する項目を使用する場合は、SmartOn ID マネージャーやインポート・エクスポートツールを使用して設定してください。設定方法については、「SmartOn ID 管理者ガイド」および「SmartOn ID インポート・エクスポートツール 取扱説明書」を参照してください。

データ移行対象外項目は、以下のとおりです。（2015 年 3 月現在の情報をもとに記載しています）

3.1.1　SmartOn NEO にのみ存在する機能、項目

SmartOn NEO にのみ存在する機能、項目は、SmartOn ID では利用しないため、移行対象外項目です。

表 3.1.1　SmartOn NEO にのみ存在する機能、項目

オブジェクト	機能、項目名
ユーザー	PIN（※1）
ユーザー/OU	PIN の変更を禁止する（※1）
ユーザー/OU	初回ログオン時に PIN を変更する（※1）
ユーザー/OU	PIN の有効期間
ユーザー/OU	PIN の変更禁止期間
ユーザー/OU	認証 PIN ロックまでの回数
ユーザー/OU	最小の PIN の長さ
ディスク	PIN の変更を許可する
ディスク	トークンが失効されている場合、トークン上の SmartOn アカウント情報を消さない
ユーザー/ディスク	1XGate（※2）
ディスク	パスワード変更ポリシーに関する項目
ディスク	SmartOn パスワード、Windows パスワードの 15 文字以上の変更を許可する
ディスク	ロック解除トークンでロック解除するとログオフする
ディスク	Ver2.0 互換モードで処理を行う
ロール	PCSC トークンアクセスモジュール設定変更
ロール	PIN ロック解除

※1　「SmartOn 認証パスワードの変換元」で「NEO の PIN 認証」が選択された場合、「PIN」は「SmartOn 認証パスワード」、「PIN の変更を禁止する」は「SmartOn パスワードの変更を禁止する」、「初回ログオン時に PIN を変更する」は「初回ログオン時にパスワードを変更する」に変換されます。

※2　1XGate 機能に関する制約事項および注意事項については、「4.3　SmartOn NEO で 1XGate 機能を使用している場合」を参照してください。

☞ **4.3　SmartOn NEO で 1XGate 機能を使用している場合**

3.1.2　SmartOn ID にのみ存在する機能、項目

SmartOn ID にのみ存在する機能、項目は、移行前のデータが存在しないため、移行対象外項目です。別途 SmartOn ID マネージャーやインポート・エクスポートツールを使用して設定してください。

表 3.1.2　SmartOn ID にのみ存在する機能、項目

オブジェクト	機能、項目名
ユーザー/OU	暗号化された SmartOn パスワードを保存する
ユーザー	初回ログオン時にパスワードを変更する（※1）
ユーザー	パスワードを無期限にする
ユーザー	アカウントの有効期限
ディスク	ID 読み込み先設定
ディスク	Windows アカウント/パスワードを転用する
ディスク	トークンの先読みを行う
ディスク	トークンを置いたら PC ロックする
ディスク	トークンを抜いて PC ロックするまでの猶予時間
ディスク	SmartOn パスワードによる一時停止/アンインストールを許可しない
ディスク	SmartOn 認証していないときはモジュールアップデートしない
ディスク	動作確認処理で ID を表示する
ディスク	SmartOn 認証失敗時の処理遅延設定
ディスク	初期アカウント
ロール	アカウントのロックアウトのみ変更
ロール	トークン ID を表示する
ロール	管理者フラグ
ロール	ロック解除トークン
ロール	初期アカウントの追加
ロール	初期アカウントの削除
ロール	初期アカウントの変更
ロール	初期アカウントの優先度変更

※1　「SmartOn 認証パスワードの変換元」で「NEO の PIN 認証」が選択された場合は、「初回ログオン時に PIN を変更する」の設定が「初回ログオン時にパスワードを変更する」の設定に変換されます。

3.1.3　SmartOn NEO と SmartOn ID で設定箇所が異なる項目

SmartOn NEO と SmartOn ID で設定箇所が異なる項目は、移行ができないため、移行対象外項目です。別途 SmartOn ID マネージャーやインポート・エクスポートツールを使用して設定してください。

表 3.1.3　設定箇所が異なる項目

項目名	ID での設定箇所	NEO での設定箇所
管理者トークン	トークンシリアル	ユーザー
ロック解除トークン	トークンシリアル	ユーザー

※上記項目に関しては、SmartOn NEO ではユーザーごとの設定項目でしたが、SmartOn ID では発行したトークンシリアルごとに設定できる項目となります。

3.1.4　SmartOn NEO Ver.2.8.1 アップデートパック 4 以降に追加された機能、項目

CSV ファイル変換ツールでの移行対象項目は、SmartOn NEO Ver.2.8.1 アップデートパック 4 までです。これ以降に追加された機能や項目は移行対象外項目です。別途 SmartOn ID マネージャーやインポート・エクスポートツールを使用して設定してください。

3.1.5　その他

有効化/無効化シリアルやサブマネージャーライセンスは、SmartOn ID を使用するうえで新たに登録、設定が必要なデータですので、移行対象外項目です。別途 SmartOn ID マネージャーやインポート・エクスポートツールを使用して設定してください。

3.2　データ移行対象項目

SmartOn NEO と SmartOn ID で項目名が同じ項目は、基本的にデータが移行されます。

また、表 3.2.1、表 3.2.2、および表 3.2.3 の項目は、SmartOn NEO と SmartOn ID で項目名は違いますが、データ移行時に SmartOn NEO の設定が SmartOn ID に移行されます。

表 3.2.1　データ移行（ユーザー）

SmartOn NEO での項目名	SmartOn ID での項目名
クライアントでのトークン発行可能回数	クライアントでのトークン登録可能回数（※）

※CSV ファイル変換ツールで「ID のトークン登録可能回数を指定する」が設定された場合、その設定が有効となり、NEO の「クライアントでのトークン発行可能回数」の設定は移行されません。

表 3.2.2　データ移行（ディスク）

SmartOn NEO での項目名	SmartOn ID での項目名
ログオンの種類 - PIN 認証のみ	ログオンの種類 - パスワード認証のみ
パスワード変更を自動で行う	Windows パスワード変更を自動で行う
ログオン画面からのトークン発行を許可する	ログオン画面からのトークン登録を許可する
メンテナンスモードからのトークン発行を許可する	メンテナンスモードからのトークン登録を許可する
PIN/キャッシュの有効期限表示設定	パスワード/キャッシュの有効期限表示設定

表 3.2.3　データ移行（ロール）

SmartOn NEO での項目名	SmartOn ID での項目名
仮発行シリアルの発行・削除	仮登録シリアルの登録・削除

4　制約事項および注意事項

この章では、SmartOn NEO から SmartOn ID への移行時における、制約事項と注意事項について説明します。

4.1　制約事項

1. クライアントアンインストール後のレジストリ

SmartOn NEO クライアントに SmartOn ID を上書きインストールした場合、SmartOn ID のクライアントアンインストール後、以下のレジストリが残ります。

- レジストリ

HKEY_LOCAL_MACHINE

-SOFTWARE

 -Soliton Systems K.K.

  -SmartOn Client

   -Client

    -Logon

2. 上書きインストール

SmartOn NEO のクライアントに上書きインストールできる対象は、「強制上書きオプション」を指定した SmartOn ID の標準クライアントです。

また、対象 OS は、Windows Vista、7、8、8.1 となります。

なお、SmartOn ID のリモートアクセスクライアントへの上書きインストールは対象外です。SmartOn NEO をアンインストール後、リモートアクセスクライアントをインストールしてください。

4.2　注意事項

1. ディスクの接続先タブ

SmartOn NEO の環境でディスクのプロパティの「接続先」タブを編集している場合、SmartOn ID への移行後、SmartOn ID のマネージャーの共通設定が反映されません。

この場合、SmartOn NEO の環境では、通常接続先に SmartOn NEO の ACL サーバーを設定しているため、データ移行後も SmartOn NEO の ACL サーバーに接続する設定のままとなります。

したがって、別途個々のディスク情報での再設定が必要になります。

2. SmartOn ID へインポート時の SmartOn 認証パスワード

「2.2.4　SmartOn ID へのインポート」でインポートするとき、移行時に設定した SmartOn 認証パスワードがパスワードのポリシーを満たさないユーザーは、インポート処理に失敗します。

Active Directory の構築時、標準では、パスワードのポリシーの「パスワードの長さ」が「7 文字以上」、「パスワードは、複雑さの要件を満たす必要がある」が「有効」となっています。この場合、SmartOn 認証パスワードが 6 文字以下または複雑さの要件を満たさない場合、インポート処理に失敗します。

必要に応じて、インポート前に、SmartOn ID ACL サーバーのパスワードのポリシーを緩めるように変更してください。また即時に変更を反映させるには、「gpupdate /force」を実行してください。

4.3　SmartOn NEO で 1XGate 機能を使用している場合

SmartOn NEO で 1XGate 機能を使用しており、SmartOn ID へ移行後も引き続き 1XGate 機能と同等の機能を使用する場合の、制約事項と注意事項について説明します。

1. 他のサプリカント環境の用意

SmartOn ID には 1XGate 機能がありません。そのため 1XGate 機能の移行は行いません。

引き続き 1XGate 機能と同等の機能を使用される場合、Windows 標準のサプリカントなど、他のサプリカントを使用するには、その環境を用意してください。

2. Windows 標準のサプリカントへの移行

Windows 標準のサプリカントへ移行する場合、以下の制約事項と注意事項があります。

- SmartOn ID クライアントをインストールした状態で Windows 標準サプリカントを利用する場合、「ログオン前認証」は利用できません。
- SmartOn NEO で使用していた認証 PIN を、証明書用認証 PIN として連携させて使用することはできません。
- SmartOn NEO をインストールしたまま Windows 標準サプリカントへ移行する際は、事前に「SmartOn 1XGate」をアンインストールしてください。

  製品を選んでのアンインストールについては、SmartOn NEO 管理者ガイドの「2.9　SmartOn クライアントのアンインストール」を参照してください。
- SmartOn NEO で 1XGate 機能を導入の際に、Windows または NIC メーカーのアソシエーション機能やサプリカント機能を停止していた場合は、適宜各機能を有効にして再設定してください。

  設定方法についてはマイクロソフト社、および NIC メーカーへお問い合わせください。
- Windows Vista/7 で EAP-MD5 は利用できません。

  詳細についてはマイクロソフト社へお問い合わせください。
- コンピュータストアにクライアント証明書が複数インポートされていると、任意の証明書が選択できず、認証に失敗する可能性があります。Windows 標準サプリカントを利用する場合は、必要な証明書が 1 つになるような運用を検討してください。

  詳細についてはマイクロソフト社へお問い合わせください。
- Windows 標準サプリカントを利用する際は「Wired AutoConfig」サービスが開始されていることを確認してください。
- コンピュータ認証で任意のユーザー名、パスワードを用いた EAP-PEAP(MSCHAPv2)は利用できません。コンピュータ認証で EAP-PEAP を利用する場合、コンピュータアカウントでの認証のみが可能です。

3. 1XGate 機能ありの SmartOn NEO クライアントの移行

SmartOn NEO の 1XGate 機能が含まれている SmartOn NEO クライアントに、SmartOn ID のクライアントを上書きインストールすると、SmartOn NEO の 1XGate 機能が動作するままとなり、1XGate の機器への認証に成功しない環境の場合、PC 再起動後、ログオン画面が表示されて 1～2 分間は ACL サーバーに接続できない現象が発生します。

この場合、SmartOn NEO のクライアントをアンインストールしてから、SmartOn ID のクライアントを新規にインストールしてください。

5　CSVファイル変換ツール

この章では、SmartOn NEO のデータを SmartOn ID に移行する過程で使用する CSV ファイル変換ツール（CsvChange.exe）について、「2.2.2　データの変換」で説明した以外の内容について説明します。

5.1　対応 OS

CSV ファイル変換ツールの対応 OS は、以下のとおりです。

表 5.1.1　対応 OS

対応 OS	備考
Windows Server 2003 SP2 Windows Server 2003 R2 SP2 Windows Vista SP2 Windows Server 2008 SP2 Windows Server 2008 R2 SP なし/SP1 Windows 7 SP なし/SP1 Windows 8 Windows Server 2012 Windows 8.1 Windows Server 2012 R2	64 ビット OS では WOW64 で動作します。

5.2　メッセージ

CSV ファイル変換ツールが出力するメッセージについて説明します。

5.2.1　メッセージ一覧

メッセージの一覧は、以下のとおりです。

表 5.2.1　メッセージ一覧

本文	内容
処理を開始します。	処理を開始するときに表示されます。
変換処理が終わりました。	処理が終了したときに表示されます。
変換処理に失敗しました。	変換処理に失敗したときに表示されます。
処理をキャンセルしました。	処理をキャンセルしたときに表示されます。
NEO 用フォルダを記入してください。	「NEO 用フォルダ」が未記入のときに表示されます。
ID 用フォルダを記入してください。	「ID 用フォルダ」が未記入のときに表示されます。
指定された NEO 用フォルダが利用できません。	「NEO 用フォルダ」に設定されたフォルダパスが不正なときに表示されます。
指定された NEO 用フォルダが見つかりませんでした。	「NEO 用フォルダ」に設定されたフォルダにアクセスできないときに表示されます。
指定された ID 用フォルダの作成に失敗しました。	「ID 用フォルダ」に設定されたフォルダを作成できないときに表示されます。

本文	内容
最後に半角スペースが設定されています。半角スペースを最後に設定することはできません。最後の半角スペースを削除して登録してよろしいでしょうか？	「ID 用フォルダ」に設定されたフォルダパスの最後が半角スペースを設定したときに表示されます。

5.3　ログ

CSV ファイル変換ツールが出力するログについて説明します。

5.3.1　ファイル

ログファイル名は「CsvChange.log」です。CSV ファイル変換ツールと同じフォルダに出力されます。

5.3.2　フォーマット

ログファイルのフォーマットは、以下のとおりです。

表 5.3.1　フォーマット

列	内容
1	時刻（年月日 時分秒）
2	エラーコード、または 0。 一部のログで、0 以外の値が出力される。 エラーコードを出力しないログの場合、0 が出力される。
3	本文

❑　ログの出力例

```
2015/02/18 18:43:55,0,ツールが起動しました。
2015/02/18 18:44:09,0,SmartOn パスワードの変換元に[NEO の PIN]が設定されました。
2015/02/18 18:44:09,0,ID のトークン登録可能回数が[10]回に設定されました。
2015/02/18 18:44:09,0,処理を開始します。
2015/02/18 18:44:09,0,[NEO_Common.csv]を[ID_Common.csv]に変換しました。
2015/02/18 18:44:09,0,[NEO_DesktopDrive2.csv]を[ID_Common_Drive.csv]に変換しました。
2015/02/18 18:44:09,0,[NEO_NoAccess2.csv]を[ID_Common_NoAccess.csv]に変換しました。
2015/02/18 18:44:09,0,[NEO_ReadOnly2.csv]を[ID_Common_ReadOnly.csv]に変換しました。
2015/02/18 18:44:09,0,[NEO_NoAccessHidden2.csv]を[ID_Common_NoAccessHidden.csv]に変換しました。
2015/02/18 18:44:09,0,[NEO_ReadOnlyHidden2.csv]を[ID_Common_ReadOnlyHidden.csv]に変換しました。
・・・・・
2015/02/18 18:44:11,0,変換処理が終わりました。
```

5.3.3　ログ一覧

ログの一覧は、以下のとおりです。

表 5.3.2　ログ一覧

本文	内容
ツールが起動しました。	CSV ファイル変換ツールが起動したときに出力されます。
SmartOn パスワードの変換元に[%s]が設定されました。	SmartOn パスワードの変換元に設定された項目を出力します。%s には「NEO の PIN」または「NEO の SmartOn 認証パスワード」が出力されます。
ID のトークン登録可能回数が[%d]回に設定されました。	ID のトークン登録可能回数を設定したときに出力されます。%d は 0~99。
処理を開始します。	処理を開始するときに出力されます。
変換処理が終わりました。	変換処理が終了したときに出力されます。
変換処理に失敗しました。	変換処理に失敗したときに出力されます。
処理をキャンセルしました。	処理をキャンセルしたときに出力されます。
コマンドライン引数の数が正しくありません。	コマンドラインに設定された引数の数が正しくないときに出力されます。
コマンドラインの第%d 引数[%s]が正しくありません。	コマンドラインの%d 引数の値が正しくないときに出力されます。%s は設定された文字列。
指定された NEO 用フォルダが利用できません。	「NEO 用フォルダ」に設定されたフォルダパスが不正なときに表示されます。
指定された NEO 用フォルダが見つかりませんでした。	「NEO 用フォルダ」に設定されたフォルダにアクセスできないときに表示されます。
指定された ID 用フォルダの作成に失敗しました。	「ID 用フォルダ」に設定されたフォルダを作成できないときに出力されます。
script フォルダ配下のファイルのコピーに失敗しました。	「NEO 用フォルダ」に設定したフォルダに存在する script フォルダ配下のファイルを、「ID 用フォルダ」に設定されたフォルダの script フォルダ配下にコピーできなかったときに出力されます。
DWL フォルダの作成に失敗しました。	「ID 用フォルダ」に設定されたフォルダ配下に、DWL フォルダを作成できないときに出力されます。
ファイル[%s]を開けませんでした。	「NEO 用フォルダ」に設定したフォルダに存在する%s を開けなかったときに出力されます。
ファイル[%s]の読み取りに失敗しました。	「NEO 用フォルダ」に設定したフォルダに存在する%s を読み込めなかったときに出力されます。
VendorID.txt のコピーに失敗しました。	「NEO 用フォルダ」に設定したフォルダに存在する DWL¥VendorID.txt を、「ID 用フォルダ」に設定したフォルダの DWL フォルダにコピーできなかったときに出力されます。
%s[%s]を変換しました。	データを正しく変換した場合に出力されます。 1 つ目の%s はデータの種類（ユーザー/OU/ディスク）、2 つ目の%s はユーザー名/OU 名/ディスク名。
[%s]を[%s]に変換しました。	データを正しく変換した場合に出力されます。 1 つ目の%s は NEO の CSV ファイル名、2 つ目の%s は ID の CSV ファイル名。

SmartOn NEO→ID　移行手順書

2015 年 3 月 2 日　　　　第 1 版

株式会社ソリトンシステムズ

〒160-0022　東京都新宿区新宿 2-4-3

http://www.soliton.co.jp/